

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和元年(2019年)

12-1月号

(通巻 185号)

2019年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ハツカネズミ

博物館の、残った糞や道具の置き場で
出会いました。糞は食べられてしまし
た。ずいずいずつころばし、ですね。

- P1 ☀️ いきもの写真館
ハツカネズミ
- P2 / 3 ☀️ 明治時代の地形と土地利用
自然堤防・浜堤
- P4 ☀️ いちかわの植物 30年
ハマエンドウ・ハマヒルガオ

- P5 ☀️ 街かど自然探訪
南八幡・モミジバフウの街路樹
- ☀️ くすのきのあるバス通りから
台風後のダムのような
- P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
プラ容器を使ったアリの巣の展示
- P7 ☀️ わたしの観察ノート
9月～10月の記録
- P8 ☀️ 行事案内

博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。

明治時代の地形と土地利用

自然堤防・浜堤

市川市域では、市川砂州より南側には低地が広がります。低地はそのまま東京湾へと続きますが、低地の中にもわずかな土地の高まりがあります。自然堤防や浜堤と呼ばれるもので、古い時代に水が運んだ土砂が堆積した高まりです。

明治時代の土地利用図

右ページの図1は、1880（明治13）年の地形図に、土地利用ごとに着色をした土地利用図です。明治のころは地形と土地利用が密接に関連していたため、等高線を使って地形を探るよりも、土地利用図を見る方が直感的に地形を知ることができます。

低地が広がる市域南部

図1のうち、色のついた範囲が市川市域です。全体的には、紙版では薄いグレーが、web版では薄いグリーンが広がっています。その場所には「水田」「田」という文字が見えます。水田として利用されていた場所です。多くは稲田で、一部には蓮田もあったかもしれません。水田ですから、土地は低く、水を導くことができたということになります。

水田が広がる範囲を南（図では下方向）に眺めていくと「塩田」「塩濱」と書かれた場所があり、さらに南側には「泥」と書かれた場所があつて、東京湾へ続いています。「泥」と書かれた場所は干潟です。

集落があつた場所

図1のうち、集落があつた場所は紙版では濃いグレー、web版では濃いピンクで示されています。江戸川に沿うように帯状に広がり（図中、Aで示した白い矢印）、また、水田の中に島のようになっている場所もあります（図中、Bで示した白い矢印）。全体に平らな地形ですから、もっと面的に集

落が広がっていてもよさそうですが、そうなのは 아닙니다。それは、低地の中のわずかな土地の高まりを選んで集落が形成されたからです。

図2は、図1と同じ場所の地形分類図です。図1の集落の範囲と一致するように、紙版では白、web版では薄い黄色に着色されています。その色の範囲は「自然堤防・浜堤」を示しています。自然堤防は、大水の時に川を流れ下った土砂が堆積したもので、水が引くと川に沿った堤防のような高まりとして残ります。浜堤は、大波が運んできた土砂が堆積したもので、波が収まると海岸線に沿った高まりとして残ります。この地域では、江戸川が自然堤防を、東京湾が浜堤を作りました。白矢印Bの浜堤は、かつて東京湾の海岸線がBにもっと近かつた時代にできたものです。

まとめ

市川市域南部には低地が広がり、水田として利用されていました。低地の中には「自然堤防」や「浜堤」といったわずかな高まり（高低差は1mにも満たない）があり、集落はそういった場所に形成されました。水は、わずかでも高低差があれば必ず低い方へ流れます。ですから、高まりに集落ができ、そのまわりが水田として利用されたのです。この時代、人びとの暮らしはわずかな土地の高低を忠実に反映して営まれていました。

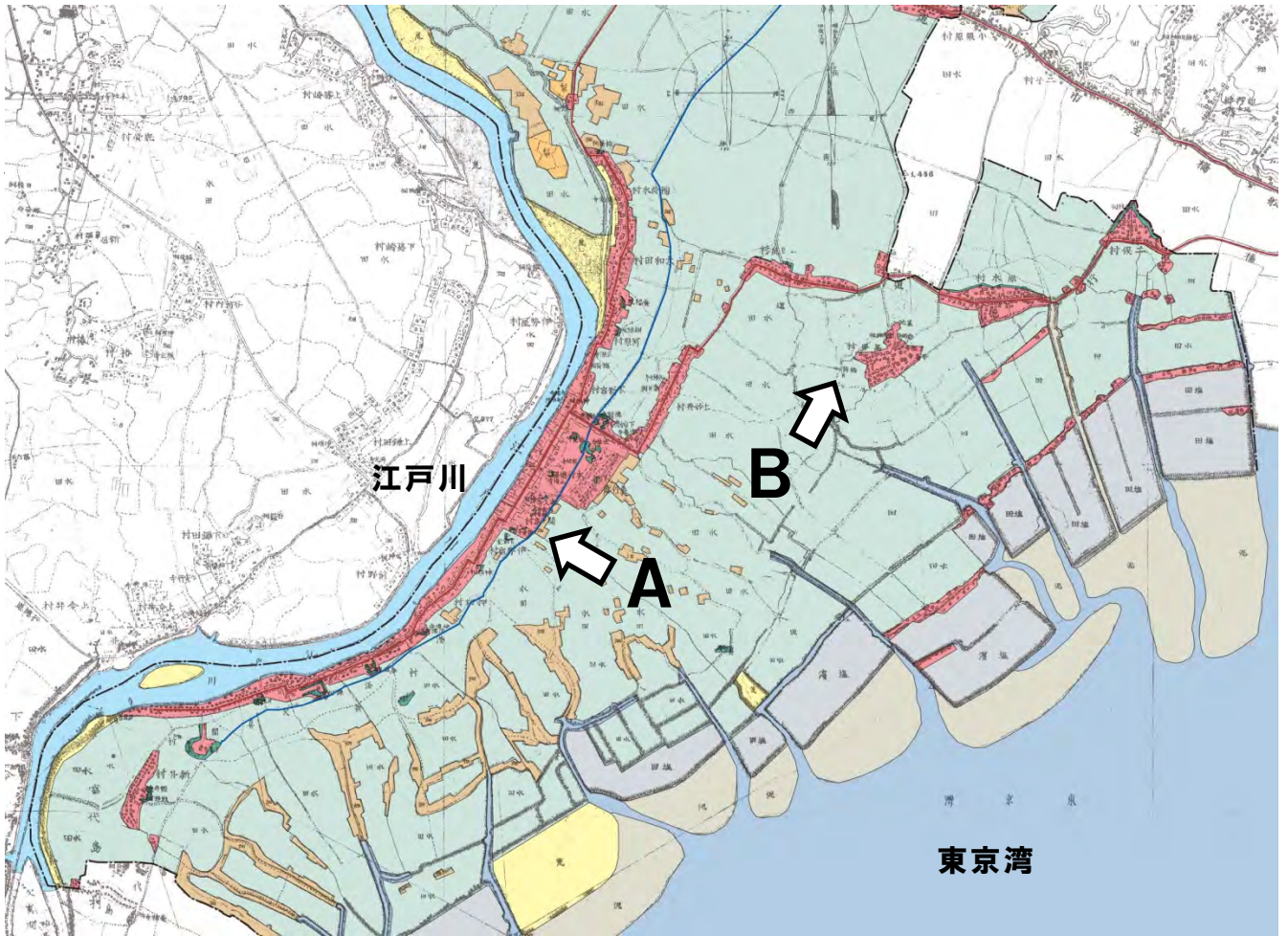


図1 1880（明治13）年の市川市域南部の土地利用図

「市川市史自然編 都市化と生きもの」P47 図2-2-3より一部抜粋して使用
（市域外は着色していません）



図2 図1と同じ場所の地形分類図

「市川市史自然編 都市化と生きもの」P5 図1-1-4より一部抜粋して使用

- 自然堤防・浜堤
- 沖積平野
- 干拓地
- 埋立地
- 河川敷
- 川、海



写真1 1947（昭和22）年撮影の航空写真
自然堤防の上に集落が形成されている。

いちかわの植物 30年

自然博物館の30年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

ハマエンドウ

市川市域は、北部の谷津や雑木林のほかに江戸川の河川敷や東京湾の干潟など、狭い中にも多様な環境があり、都市化が進んでいるわりには自然が多いように錯覚させられます。

江戸川放水路は東京湾の入り江のような場所です。泥干潟が多くありますが、その一角、砂がたまった場所にハマエンドウはありました。全国的にはありふれた海浜植物ですが、市川市域に生えていたことに感銘を受けた記憶があります。



ハマエンドウ(1990年5月16日)
江戸川放水路の右岸

ハマヒルガオ

ハマエンドウと同じ場所で咲いていました。というか、実際はハマヒルガ

オの発見が先で、さらに探したらハマエンドウもあったという流れです。ハマエンドウよりも適応力があるようで、



ハマヒルガオ(1987年5月25日)
江戸川放水路の右岸

その後も堤防のコンクリートの隙間で花を咲かせているのを見つかりました。

船橋市の三番瀬海浜公園には大きな砂浜があり、その西側、市川市東浜まで続いています。そこにも、ハマヒルガオのまとまった群落があります。江戸川放水路よりも、「らしい」環境の場所です。



街かど自然探訪

おじゃまします!

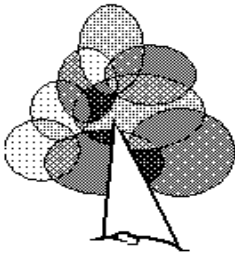
みなみ や わた

南八幡・モミジバフウの街路樹

市川市仮本庁舎前から国道14号線にかけての街路樹は、モミジバフウという木です。手の形の葉が秋には真っ赤になるのが特徴です。在来種ではありませんが、公園や街路樹でよく見かけるようになりました。今年は台風の影響で、葉が千切れたり黒ずんだりしていますが、ちゃんと色づき始めていました。整備されたばかりで、それぞれの木はそれほど茂っていませんが、紅葉した樹々の並びはとてもきれいです。



△ニッケコルトンプラザ通りのモミジバフウ
国道14号線付近から市川インターチェンジに向かって、約800mの区間に植えられています。



くすのきのあるバス通りから No.127

台風後のダムのように

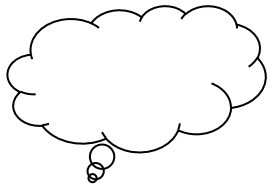
9月9日、台風15号の風により千葉県は屋根や電柱、ビニールハウスの被害がありました。10月12日の台風19号では、東日本の広範囲に雨による被害が出ました。25日は豪雨でした。宮久保の崖崩れを警戒するエリアメールが入り、「大変だ…」と思いました。

台風の前、ハイキングや自然観察が目的で、奥日光や足尾、草津や下仁田に、たびたび出かけていました。戦場ヶ原の中の川があふれ、木道が浮いて流れ、車道が泥でいっぱいでした。

「渡良瀬川が氾濫しそう」とニュースになった足尾銅山の下、草木ダムは

濁った水。吾妻川の八ッ場ダムも、奥のほうまで水がいっぱい。それを見に来た人で、展望台まで長い行列ができていました。群馬県と埼玉県の間、神流川の下久保ダムは、上流からダムまで、流木がいっぱい浮いていました。中川周辺の水害を防ぐため造られた首都圏外郭放水路は、江戸川の水位を監視しながら、放水の時期を決めたそうです。どの川でもダムに土砂が相当流れ込み、下流の水量は川幅いっぱい、当時は水位も高かったようです。これらの川の下流は利根川だけでなく、江戸川でもあります。

(M. M.)



展示室

No.29

飼育生物の話題



プラ容器を使った アリの巣の展示

上の写真は、アリの飼育展示の様子です。60cmのガラス水槽の中で、クロナガアリとクロオオアリを飼育しています。上の段がクロナガアリ、下の段がクロオオアリです。アリの飼育というと、いくつもの部屋に分かれたおなじみの巣を粘土や石膏で作るイメージですが、実際はそんなことはありません。プラ容器の側面に穴を開け、チューブでつなぐだけでも立派に巣として機能します。本来は地下にあるので真っ暗なはずですが、照明をあてても問題ないようです。



透明容器を水平につないでいるので、それぞれの部屋が丸見えです。女王アリがいる部屋も左の写真のようにぼっちりです。左の写真では、クロオオアリの大きな女王と何匹かの働きアリ、女王の後方には白っぽい卵と幼虫が見えています。世話のために水槽の蓋を開けると、働きアリたちは何事かと幼虫や卵をくわえて右往左往します。かわいいですよ。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・午後4時ごろ、サムライアリが奴隷狩りを行っていました(9/1)。サムライアリは集団でクロヤマアリの巣を襲い蛹を奪い、自分達の巣に持ち帰り、奴隷にします。この時、幅30センチほどの行列を作ります。
- ・園路の脇のジュズダマに、クロコノマチョウの幼虫がいました(9/15)。2mmくらいのものから5cmくらいのもので色々な大きさの幼虫を見ることができました。黒い頭が見つけたときに目印になります。

以上 稲村優一(自然博物館)

◆大町より

- ・動物園の上空でサシバが見られました(9/6)。少なくとも2羽はこの周辺から飛び立ったようで、園内のフライングゲージぎりぎりの高さを飛んでゆきました。6羽が上空にそろったところで見えなくなりました。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・夜7時過ぎ、博物館の屋根の上に、フクロウが止まっていました(9/29)。暗かったのですが、こちらを見ているのはわかりました。

◆中山より

- ・小学校の中で子どもたちと自然観察をしました(10/23)。倒木を動かした子どもが、へびと叫んでいたので行って見ると、ヒバカリの、今年生まれの赤ちゃんが丸くなっていました。見つけた子は、うれしそうでした。

◆市川より

- ・街路樹がスズメのねぐらになっていました(9/10)。薄暮の頃、まわりに集まったスズメたちが、断続的に街路樹の中に飛び込んでいきました。

◆坂川旧河口より

- ・ゲンノショウコがまとまって咲いてきれいでした(9/22)。身近で見られるフウロソウですが、生育に適した場所が宅地化され、すっかり珍しくなりました。

◆江戸川放水路より

- ・台風19号の影響で、平成29年10月以来2年ぶりに行徳可動堰が開きました。干潟には柔らかな泥がたっぷり堆積し、あんなにたくさんあったカニ穴が埋まっていました(10/17)。トビハゼは元気で、稚魚がまっさらな泥の上をピョンピョン跳ねていました。

以上 金子謙一(自然博物館)

9月9日早朝に東京湾から千葉市付近に上陸した台風15号は、深刻な強風被害を県内各地にもたらしました。大町公園(長田谷津)も樹木の倒壊と枝葉の堆積で10日以上臨時休園を余儀なくされました。10月12日夜から13日未明にかけては台風19号が関東から東北へと通過し、記録的な大雨が各地に降り、中小の河川だけでなく大規模河川でも堤防決壊や越水がありました。25日には、関東の東海上の台風21号の影響などで千葉県を中心に大雨が降り、茂原市など各地で浸水被害が発生しました。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 1月4日㊥、2月1日㊥、3月7日㊥、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

長田谷津 ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいませんか。

(雨天中止)

- ・日時 12月22日㊥、1月26日㊥、2月23日㊥、3月29日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いして下さいませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 3月8日㊥ (12～2月はお休み)
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

年末年始の開館

年内は12月27日まで
年始は1月3日から
開館いたします。



第32巻 第5号 (通巻第185号)

令和元年12月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477